



きらくなたより

発行者 鈴木 忠好
発行月 R4年8月
編集者 坂口 洋一
No. 62

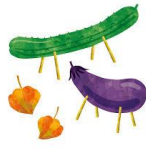


以前は「蝉しぐれ」と言っ
てアブラゼミ、クマゼミ、
ミンミンゼミ等が競うよ
うにうるさいくらい鳴い
ていたものです。

夕方になるとヒグラシがカナカ
ナ・・・と鳴いて、風情があったも
のですがこの頃はとうしたことで
しょう。散歩をしているとニイニイ
ゼミやツクツクボウシがたまに。
それも緑ヶ丘公園や池近くの林
の中からの限られた場所からだけ
です。

蝉たちも暑さにまいってしまっ
たのか、それとも蝉コロナにでもか
かってしまったのでしょうか。

「おや、蝉。」
いいえ、耳鳴りですー！



今年もご先祖様が、マス
クもしないで里帰りさ
れました。

あの世でもコロナが蔓延してい
て大変だそうですね。

里帰る前に検査をした結果
陰性だったとの事なので、迎える方
も一安心！

たいしたおもてなしもできませ
んでしたが、キュウリの馬にまたが
って、機嫌よく帰って行かれまし
た。

本当のようなうその話です。

ネギの植替え

この暑い中、一部会員の協力で
ネギの植替えを行いました。

まっすぐ育ったネギを植替え
「根曲がりネギ」にするのだそう
です。せつかくまっすぐ素直に育
っているのに、なぜ曲げるのでし
ょうか。

ネギの美味しいのは白い部分。白
い部分は土の中。ゆえに白い部分
をより多くするためにネギを曲げ
るのだそうですね。
先人の知恵ですね。まっすぐ素
直に育てれば良いとは限らないも
のです。



カボチャ！

きらくな畑の東端に今年カボ
チャの棚が二つ作られています。

それぞれの棚に、カボチャの蔓
がのびのびと伸びつき、雌花と雄
花が黄色い花を咲かせ、大きなカ
ボチャがいくつかがぶら下がって
います。これまた、園芸部の立派な
作品です。

カボチャの棚を見ると、戦争中
の昔を思い出します。

郡山市が戦災に遭った頃、米軍
の爆撃機から家屋を隠すために、
どの家でも、縄で作った網を作り
それにカボチャの蔓を這わせたの
です。

それがどれほどの効果があったか
は分かりませんが、少なくとも貴
重な食料になったことは間違いあ
りません。空襲のたびに逃げ込ん
だ防空壕の上にもカボチャが成っ
ていました。戦後に生まれた若い
お年寄りは分からない事ではよ
う。米粒以上にカボチャが入った
ご飯。カボチャに命を助けられま
した。カボチャ様様なのです。



高校野球の真紅の大優勝
旗が初めて白河の関を越
えましたね！

警高の「小さな大投手田村
選手」。なぜだか急に思い
だしました。

夏休みが終わり、虫の音が
聞こえ、もうすぐ秋です
よ！